

独行道（上）

宮本 武蔵
みやもと むさし

- 一、 世々の道にそむく事なし
よよ みち こと
- 一、 身に楽しみをたくまず
み たの
- 一、 よろずに依怙の心なし
えこ へんご
- 一、 一生の間欲心思はず
いつしやう あいだよくしんおもわ
- 一、 我事において後悔せず
われこと こうかい
- 一、 善惡に他をねたむ心なし
ぜんあく た にく
- 一、 何れの道にも別をかなしまず
いずれ みち わかれ
- 一、 自他共にうらみかこつ心なし
じ たとも へんご
- 一、 恋慕の道思ひよる心なし
れんぼ みちおもい へんご
- 一、 物事にすき好む事なし
ものごと こと こと

- 一、 生きてゆくうえでの道德にそむくことはしない（自分に得なことが起きないから）
- 一、 気安く快樂を求めたりはしない（今を楽しむ敏感さが必要だ）
- 一、 何事にも頼り切ったりはしない（自分のことは自分で責任を持つ）
- 一、 一生のあいだ、欲張った気持ちは持たない（今の状態が、十分なのだ）
- 一、 自分の決めたことで後悔することはない（失敗しても自分に必要な試練と、受け入れる）
- 一、 よきにつけ悪しきにつけ、他人をねたむ心は持たない（自信がない証拠だから）
- 一、 どの道においても親しい人との別れを惜しまない（いつか必ず別れは来るのだから）
- 一、 自分に対しても他人に対してもうらんだりすることはない（自分がうらまれる元だ）
- 一、 恋愛することはない（敬愛はする。独占しない、されない）
- 一、 物事に好き嫌いしない（何事にも素晴らしい面がある。それを見抜くこと）

二刀流の剣聖宮本武蔵は、その人生において六十回以上の真剣勝負を行い、負けたことがないといえます。その強さについては、「弱い相手ばかりとやったんだろう」などの勝手な批判をする知識人が多いのですが、武蔵の書き残したものを読めば、その徹底した、負けないための合理主義、墮落しないための合理主義、みじめな生き方をしないための合理主義に驚かされます。書道や絵画、彫刻などの作品を見てもどれも超一流です。

独行道（下）

宮本 武蔵
みやもと むさし

一、私宅におひて望む心なし
したく い のぞ

一、身ひとつに美食を好まず
み びしょく この

一、末々什物となる古き道具所持せず
すえずえじゅうぶつ ふるきどうぐしよじ

一、我身にいたり物いみする事なし
わがみ もの こて

一、兵具は格別余の道具をたしなまず
ひょうぐ かくべつよ どうぐ

一、道におひては死をいとはず思ふ
みち い し わ おもう

一、老身に財宝所持もちゆる心なし
ろうしん さいほうしよじ へいしん

一、仏神は尊し仏神をたのまず
ぶっしん とうと ぶっしん

一、常に兵法の道をはなれず
つね ひょうほう みち

一、自分の家を持ちたいとは思わない（他人に修行の場を提供するのならよい）
一、自分のためにごちそうをもとめたりしない

一、余計なものであふれかえるのは見苦しいから、古い道具は捨てる

一、自分にとって縁起が悪いといった迷信（まじない・占いなど）は無視する

一、刀などの武具は特別だが、余計なものを好きこのんで集めたりはしない

一、自分が進むべき道を行くなら、死んでも悔いはない

一、老人になつてからぜいたく品を使つたり財産を持つとうなどとは思わない

一、神仏は敬うべきものだが、神仏に頼みごとはしない。自分で実行する

一、常に戦略や戦術を練ることを忘れず、鍛錬する
つね

宮本武蔵が書き残した『五輪書』は日本人必読の書だと思えます。海外でも翻訳されて、ビジネスマンこそ読むべきと、もてはやされたこともありましたが、いわゆる哲学書が抽象的な言葉でわかりにくいのに対し、武蔵は徹底的に具体例ばかりでわかりやすく、戦い方や鍛錬の仕方を述べます。そしてそれが同時に深い哲学に満ちていることに、ほんとうに驚かされるのです。